

米国レントゲン線学会：The American Roentgen Ray Society（ARRS）は、1900年に創設されたアメリカで最古のレントゲン線学会です。レントゲン線発見直後より、放射線学の進歩のためのフォーラムとして、放射線学と関連領域を通じて医学の発展に貢献しています。

www.ajronline.org

American Journal of Roentgenology（AJR）は、米国レントゲン線学会（ARRS）の正式機関誌として創刊以来、100年以上にわたり、放射線医師や放射線にかかわる専門家に、画像診断と放射線医学関連の最新の研究を提供しています。AJRは世界でおよそ25,000部発行され、最も権威ある専門誌の一つとして位置付けられています。

The screenshot displays the AJR website interface. At the top, the AJR logo and 'American Journal of Roentgenology' are on the left, and navigation links (Home, Contact, Help, LOGIN) are on the right. Below the header, a search bar and 'Advanced Search' link are present. The main content area features a large section for the September 2022 issue (Volume 219, Number 3) with a cover image. To the right, there are statistics: 42,199 citations in 2021, Impact Factor 6.582, Immediacy Index 2.658, Rapid peer review, and Rapid online publication. Below the statistics, there's a section for 'View Online First articles' with a list of recent publications. On the far right, there's a section for 'ARRS SYMPOSIUM' featuring 'Liver, Pancreatic, and Biliary Tumors' and an 'OPEN ACCESS Editor's' section.

- ISSN: 0361-803X(Print), 1546-3141(Online)
- 2024年1月より冊子体提供が無くなります
- Editor-in-Chief : Andrew Rosenkrantz
- Journal Impact Factor: 4.7(2023)
- 提供形態 : Online Only



ユサコ株式会社のホームページでは、AJR やその他学術雑誌に掲載された日本人著者論文の日本語抄訳をご紹介します。

www.usaco.co.jp/article/

論文タイトル	Dual-Energy CT-Derived Electron Density for Diagnosing Metastatic Mediastinal Lymph Nodes in Non-Small Cell Lung Cancer: Comparison With Conventional CT and FDG PET/CT Findings
論文タイトル (訳)	非小細胞肺癌のリンパ節転移評価におけるdual-energy CTから算出された電子密度値の有用性 —従来のCT画像およびFDG PET/CTとの対比—
DOI	10.2214/AJR.21.26208
巻号	American Journal of Roentgenology Vol.218 No.1 (2022)
著者名 (敬称略)	長野 広明 内匠 浩二 他
所属	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科放射線診断治療学

抄訳

近年、新しいCTの撮像法であるdual-energy CTが臨床導入され、ヨード密度画像や電子密度画像など新たな解析画像を取得することが可能となった。電子密度画像は、軟部組織内構造を評価しうる新たな定量画像となる可能性を秘めている。本研究では、非小細胞肺癌のリンパ節転移診断におけるdual-energy CTの電子密度値の有用性を評価し、従来のCT評価項目やFDG PET/CTでの評価と比較を行った。電子密度値は、非転移リンパ節と比較して転移リンパ節において有意に低い値であった ($P < 0.005$)。正常リンパ節構造と比較して一般的な結合組織はその内部の電子密度が低いと報告されている。非転移リンパ節と比較して、転移リンパ節内での癌細胞の存在による間質性組織の増加が今回の結果に影響したものと推測された。その他のCT画像所見やFDG PET/CT所見との組み合わせ診断では、リンパ節短径との組み合わせ (診断能82.9%、感度54.5%、特異度94.0%) およびFDG PET/CT陽性との組み合わせ (診断能82.1%、感度60.6%、特異度90.5%) で、短径とFDG PET/CT陽性それぞれ単独と比較して診断能を有意に向上させた (それぞれ $P < 0.05$)。

日本人著者の論文も数多く掲載！是非、投稿をご検討下さい。

- 著者向け情報ページURL: <http://www.arrs.org/ajr/authors>
- AJRの投稿規程は文献管理・論文作成支援ソフト『EndNote®』にサポートされています。

